



茨木のり子

1926-2006

1926年大阪生まれ。愛知県西尾市で育ち、「軍国少女」として、戦争に翻弄された青春時代を過ごす。戦後は文学の道を志し、24歳で詩作活動を開始。川崎洋と詩誌「権」を創設し、谷川俊太郎や大岡信らとともに、詩壇を牽引した。2006年に79歳で亡くなるまで、48年間旧保谷市で暮らし、慣れ親しんだ東伏見に関する詩も多く遺されている。

代表作

Masterpiece

「倚りかからず」「自分の感受性くらい」「わたしが一番きれいだったとき」など

詩集

Book of Poems

『対話』『見えない配達夫』『歲月』など

現代詩の長女—その根源にせまる西東京市初の企画展！

本展では、厳選された詩のパネル展示を通して時代との＜対話＞を、茨木氏が大切にした「衣・食・住」それぞれのこだわりを伝える愛用品を通して、彼女の＜素顔＞を、その凛とした生き方やその魅力を紹介します。
日々のなんでもないしあわせの意味を噛みしめ、平和を考えてみませんか。

イベント

※事前申込み不要・直接現地へ
※会場はすべて郷土資料室です

9/20(土)

女声2部合唱

11:00- 茨木のり子の歌うたい隊

茨木のり子の詩をメロディーにのせて歌います。🎵🎵



10/19(日)

朗読会

14:00- りゅうりえんれんの物語 ほか

And

11/7(金) 日本軍に強制連行され、炭鉱で過酷な労働を強いられた中国人劉連仁さんの実話に基づく長編叙情詩を朗読します。

10/19(日)

音楽童話

11:00- 貝の子プチキュー

茨木のり子、生涯ただ一つの絵本「貝の子プチキュー」を大画面でフルートの音色と共に朗読します。



©福音館書店

開室日は毎日開催
14:00-

ギャラリートーク

解説付き展示鑑賞

「茨木のり子の家を残したい会」メンバーが展示についてわかりやすくお話しします。



来年のスケジュール

来年（2026年）は、茨木のり子生誕100年、没後20年を迎えます。記念イベントを6月に保谷こもれびホールにて開催予定です。また、郷土資料室特別展も第2弾を企画中です。続報をお楽しみに。

茨木のり子

守りぬこうこのなんでもないしあわせ
西東京市で紡がれた茨木のり子平和の言葉展

西東京市郷土資料室

西東京市西原町4-5-6 西原総合教育施設2階

- ▶ 西武池袋線「ひばりヶ丘」駅南口から乗車
- ▶ 西武武新線「田無」駅北口から乗車
- 西武バス（田44/境07系統）
- 「西原グリーンハイツ」下車徒歩3分

